

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470201268	事業の開始年月日	平成17年12月1日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	特定非営利活動法人 介護支援協会			
事業所名	グループホーム よこはま			
所在地	(221-0854)			
	神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢南町13-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成28年10月29日	評価結果 市町村受理日	平成29年2月21日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊社は神奈川区三ツ沢の丘陵中腹の閑静な住宅街に御座います。坂道が多く散歩等は高齢者の方々には厄介では御座いますが近くには散歩や休憩に適した「せせらぎ緑道」と呼ばれる緑豊かな石畳の遊歩道が御座います。医療面に関しましては24時間体制のバックアップによる在宅療養支援診療所による月2回の訪問診療。歯科は週一度の訪問で治療、口腔ケアを行って頂いて居ります。防災面に関しましては片倉消防署、三ツ沢南町町内会のご協力、連携を取りながら緊急時に備えて居ります。ホームの職員は入居者様の安心と安全を第一に考えホームのハード、ソフト両面を整備し入居者様が楽しく生き活きとした生活が出来る様に日々支援に努めて居ります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年11月30日	評価機関 評価決定日	平成29年2月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成17年12月に開設され、約11年の実績があります。市営地下鉄「三ツ沢下町」駅より大通り沿いから丘に向かって坂道を上り、中腹の住宅街の一角にあり、駅から徒歩約8分です。敷地内で路が取れる事業所です。

<優れている点>

管理者が町内会の役員に就任し、地域との連携が図られています。運営推進会議に町内会長、副会長、防災課長、民生委員が参加しています。管理者は町内の情報を得、事業所の行事などの知らせを発信しています。地域の祭りに子供神輿が来たり、事業所の祭りには、地域の人々が参加しています。事業所の避難訓練時には地域の人々が10名以上参加しています。運営法人と町内会、消防署の3者で災害連携協定を締結しています。運営法人の理事長は、頻繁に事業所を訪れ、職員と一緒に入居者の支援を行っています。理事長が近くにいることで、入居者や職員が安心して日々を過ごしています。

<工夫点>

医療連携体制加算を受け、医療面での体制が整えられています。外部の病院への受診が必要な場合には、管理者が車を運転し、入居者の受診に同行しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム よこはま
ユニット名	こもれび

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念をホーム玄関、スタッフ控室に掲げ全てのスタッフが常に確認出来る様にさせていただいています。	理念は、玄関・キッチン・スタッフルームに掲示しています。申し送りをする中で、理念を考えながら一日を過ごすように伝えています。ユニット長は、職員に、理念に沿った支援をしているか、アドバイスをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の町内会に加盟しており、昨年度までは弊社の施設長が組長を務めていました。夏祭りには子供神輿がホームまで来てくれて交流を深める事が出来た。	町内会に加入し、町内会主催の夏祭りや敬老会に参加しています。子供神輿が事業所に来ています。事業所の祭りの「合同祭」に地域の人が参加しています。避難訓練時には地域の人が10名以上参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会長さんの理解が大きく、地域の方々の理解、協力者が増えて来ている様に感じられる。グループホームの存在と認知症の人がこの地域で生活している事は徐々に浸透してきている。しかし地域の方々へ直接、認知症の人の理解や支援方法を発信するまでには		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、年6回の運営会議を開催している。地域の方々、家族、包括の方々へ運営状況を報告し、新しい取組み等についてはアドバイスを頂く等してサービスの向上に直結する様な中身のある運営会議開催に努めて居ります。	2ヶ月に1度、年6回、隣接する同法人の事業所と合同で開催しています。町内会長、副会長、民生委員、防災課長、地域包括支援センターの主任ケアマネジャー、保健師などが参加しています。地域の情報や事業所の報告、予定などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所の高齢支援課が主催する介護相談員制度を導入。毎月第2金曜日に研修を積んだ2名の相談員が来訪し、ホームで入居者からお話を伺い、ホーム職員の気付かないサービスの拾い上げをして区役所にその報告を行なっている。	区高齢障害支援課から介護相談員が月1度、2名来訪し、入居者の話を聞いています。年1回の介護相談員連絡会で介護相談員からの報告を聞いています。生活支援課のケースワーカーに入居者についての相談を頻繁に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ドアの入り口には事故防止の為に施錠をしている。身体拘束についての理解を深め、それに繋がるケアを行わない事を前提にしており、人権の擁護、尊重に努めている。	「身体拘束をしないことへの取り組みについて」と題されたマニュアルを整備しています。「身体拘束を行うに当たっての同意書」を準備しています。ユニット長は、職員の、入居者への支援を見て、対応の指導を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待行為は行わない、見過ごさない様に最新の注意を払い安心して暮らして頂ける様に努めている。特に学ぶ機会が無いが各自虐待についての理解はしっかりと認識しており防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	特に学ぶ機会は設けられておらず、制度利用の必要性について感じている職員は各々学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	直接に関する事はまだ殆ど無いが、入居契約、解約等、利用者及びご家族に不安や心配が無いよう、事業所は内容の一つ一つについて確認を取りながら契約、解約に臨んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会簿に施設への要望記入欄を設けており記入して頂いている。記入された要望については内容を検討し、要望を実施した際は実施状況とその結果について記入者に戻す事になっている。	玄関に「市福祉調整委員会のポスター」と「チラシ」を掲示し、「苦情対応マニュアル」を整備しています。面会簿には、希望、意見を記入出来る欄を設けています。月1回「家族への手紙」を送付し、家族から苦情や意見を聞き取りやすいようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会としての会議等は特に無い。しかし職員の意見や提案を代表者、管理者は聴かせて貰える様に努力している。	月1回ずつ職員カンファレンスとフロアカンファレンスを開催し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けています。身近に法人理事長や施設長が居り、管理者やユニット長にも意見を出しやすい環境が作られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者、施設長は勤務する職員の勤務状況を様々な角度から見据えて福祉の場で働く意味を共に考え、職場環境、条件を整備し、職員の労働意欲を引き出し、その維持に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が個人的に不足していると思われる知識や技量について、法人内外を問わずに研修に派遣する様にと考えているが、勤務との兼ね合いが問題となっている。検討して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者、施設長は同業施設へと訪問。施設間交流を実施しながら情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。しかし職員レベルでの交流までとはなっていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期段階での不安の把握や要望の収集の重要性は十分に理解している。その情報を集める際の書式、フォーマットについては検討の必要性を感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望に関しましては極力耳を傾け、ほんの少しでも気になる様な事でも話せる様な雰囲気作りを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様やご本人様の要望に耳を傾け必要としている支援についてアセスメントを行って居ります。更にご家族、ご本人様に確認を行って居り信頼して頂ける様に努めて居ります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	完全に出来ているかと言うと不完全な面も見受けられるが利用者様の生活歴等を理解した上で得意な事を見だし共に生活を作り上げる様に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様とご家族の関係が途切れる事の無い様に架け橋の様な存在になれる様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご家族には毎月、前月の様子をお手紙にてご報告させて頂いて居ります。また面会等を通じて関係が途切れる事の無い様に支援して居ります。	友人や知人が面会に来ています。以前やっていた卓球をしに区のスポーツセンターに行ったり、麻雀ができる外部の施設に職員が同行しています。病院への通院の帰りに喫茶店など馴染みの場所に寄っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の個性やその日の体調、気分等を考慮しスタッフがフォロー出来る様に支援に努めて居ります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要な情報等、情報提供、相談等を行って居ります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の生活歴から馴染みの物や趣味等、また利用者様の表情等を観察し一人一人の思いを把握し本人の気持ちに添う様に支援に努めている。	職員は、入居者の生活歴を考え、ゆっくり話を聞いています。入居者の表情や行動などをよく観察し、思いや意向の把握に努めています。入浴時は、マンツーマンで時間を過ごせるので、コミュニケーションを図る大切な場として考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人が何気なく話された事や行動等、再発見があれば記録に残し職員間で情報共有に努めて居ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	身体の状態については毎朝の健康チェックを行って居ります。朝夕の引継ぎの際には利用者様の日々の変化に気をつけて、一日の過ごし方の目安とし、気を配って居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のフロア会議でモニタリング兼カンファレンスを行い個別に見直しを行って居ります。変化の見られる利用者様に関しましては時間をかけて話し合いを行い、ご家族にも相談を行って居ります。	毎月のフロアカンファレンスでモニタリング及びカンファレンスを行い、入居者一人ひとりの内容を検討しています。入居者、家族の意見を聞き、医療情報、看護記録を念頭においてケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その日の行動だけでは無くその時の表情や言動等から記録を行ない職員間で申し送りを行ない状況の把握に努めて居ります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常々、職員間で話し合い柔軟な姿勢でニーズに応え業務内容の変更を行って居ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人を支える地域資源の把握に努め、それらとの協働が出来る様に支援に努めたいと常々考えて居りますが出来る利用者の方は少ないです。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科医による月2回の訪問診療。歯科医、歯科衛生士による週1回の訪問歯科、口腔ケアの実施。かかりつけ医による健康管理支援は出来ている。	入居時に本人や家族、事業所で話し合い、内科・歯科とも事業所の協力医をかかりつけ医としてしています。内科医は隔週、歯科医は毎週訪問診療があり、週1回の看護師と共に、医療の支援体制が整っています。受診する時は職員が付添います。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回看護師が出勤するが、その役割が明確で無い為、必要な情報交換に基づいた医療提供が完全には出来ていない状況である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しましては利用者様が安心して入院生活を送って頂ける様にホーム職員は必要な物品の搬入や面会を行っている。そして早期退院に向けて病院関係者と情報交換を行い、利用者様が安心してホームに戻れる様に支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針が具体的に定まってははいない。職員も戸惑う事もある。また本人、ご家族の重度化、終末期に対する意向が明確で無い方々も多く、事業所としても把握しきれていない。	重度化した場合や終末期の対応について、入居前に事前に説明し、本人や家族の了承を得ています。看取りは行いませんが、医師の指示の下に、訪問看護サービスなど、事業所の職員が医療関係者と協力して、できる限りの対応をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	今までに数回講習は受けた事はある。新しい職員はこの事業所では受けた事は無い。定期的に講習を行って行く事が必要だと思われる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施は地域住人代表者、地域消防団、消防署との協力を得て実施している。問題は職員の少ない夜間である。現実的に夜勤者が一人で避難誘導する困難さ。それに基づいた非難協力体制を構築しないといけない状態である。	3月に予定していた町内会参加の避難訓練は雨のため中止しています。10月にユニットで避難場所の確認を、11月に避難訓練を実施し、職員は避難経路を周知しています。町内会、消防署と法人の三者による「災害連携協定」が締結されています。	災害時の備蓄用の飲料水の賞味期限が切れています。非常食も試食後補充がされていません。できるだけ速やかに入れ替えや補充をすることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の人格の大切さは重々念頭に置き日々のケアに努めているが時には厳しい言葉を使ってしまっている事が見受けられる。介護従事者として相手を思いやる言葉と態度で接したい。	職員は、入居者の人格の尊重とプライバシーの保護について入職時に学んでいます。介護サービスの提供時に言葉遣いなどで気が付いたことは、毎月のフロアカンファレンスで話し合ったり、その都度職員間で注意し合い、入居者への接遇改善に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	フロア内が穏やかで寛げる空間になる様に心掛け、入居者様が思いや感情を表出しやすい様に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の業務の中には入居者様の健康維持の為にも行わなければならない事も多く、出来きれていない事は否めない。但しそればかりに捕らわれずに個別に関わる様に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	殆どの方は起床時に自主的に整容をされている。身だしなみにあまり関心の無い方に関してはスタッフが気配りを行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備に関してはもやしの髭取りや大根おろし等、お手伝いをして下さっている。一人一人が楽しく無理なく「食事が出来る様に形状や盛り付けは個別に工夫している。	「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供する」ことを心がけて、業者が納入した食材を職員が交代で調理しています。入居者は職員と一緒に会話をしながら食事を味わい、下膳や後片付けなどを手伝っています。誕生会などのイベント食も楽しんでます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取には入居者様の状態を考慮して摂取して頂いており。一人一人の一日の最低摂取量をクリア出来る様に工夫して支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを実施している。治療が必要と歯科医師が判断した利用者様は訪問歯科の治療を受け、その指示の元に歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて排泄パターン、排泄サインを把握して排泄に臨んでいる。失禁をせずにトイレで気持ち良く排泄出来る様に、その都度排泄表に基づき声かけ誘導を行っている。	職員は、入居者がどこまで出来るかを見極め、できるだけ「おむつ」への移行を遅らせるように、トイレでの排泄や排泄の自立を支援しています。排泄チェック表を活用したり、入居者の仕様などで排泄のタイミングを図り、さりげなく声掛けをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事メニューには食物繊維も十分に取入れられており、散歩や体操を毎日行い腸の活動を促している。体質的に便秘症の方には主治医より処方された緩下剤を使用し便秘予防に努めて居ります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく本人の希望や体調に合わせて行って居ります。職員と利用者様の大切なコミュニケーションの場としています。職員と一対一でゆったりと過ごす環境作りに注意を払っています。	入居者は原則週2回入浴を楽しんでいます。入居者の希望や体調などを考慮して入浴日の変更も行っています。一番風呂を希望する人にも対応しています。専用のボディーシャンプーや保湿剤を使用する人もいます。柚子湯や菖蒲湯で季節感も味わっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の体調や状態に応じて睡眠、休息の支援を行って居ります。必要に応じて午睡も取り入れて居ります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく飲み始めた薬には特に体調の変化等をチェックして医療に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人が何が出来るかを見極めた上で体調面を考慮しつつ行って頂いて居ります。張り合いや楽しみが増やせる様にと心掛けています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現状、散歩以外には一人一人の希望に添った支援は行われて居りませんが外に出てティータイム等や他のフロアの入居者様と一緒に歌等を楽しみ交流を深めている。尚、遠足やお花見等の集団での外出の機会がございます。	入居者の体調などを考慮しながら、事業所の近くを散歩したり、中庭のベンチで外気浴、隣接のグループホームの入居者との合唱や湯茶を楽しんでいます。春には皆で近くの公園へ花見に出掛けています。墓参りや通院の帰りに喫茶店に寄る人もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は全て施設側で行って居りません。利用者様はお金を一切所持して居りません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの方もいらっしゃるご家族の了解のある方に関しましては利用者様より連絡が取りたいと希望のあった時には随時連絡出来る様に支援させて頂いて居ります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を考え、利用者様の作品を展示している。利用者様の歩行中の事故防止に努め、通路を明るく保つ様になっている。利用者様の動線上にはなるべく物を置かない様になっている。	職員は、入居者がリビングなどの共用空間で誰とでも楽しく過ごせるように配慮しています。清掃も行き届き、壁には入居者と職員が、柔らかい色紙「おはながみ」を数百個丸めて制作した「富士山」や、切り紙の「クリスマスの絵」などが飾られています。玄関先の花壇も入居者を和ませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースは限られており、一人になれる場所を確保するまでには至っていないが限られたスペースを有効に利用出来る様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理整頓を心掛けて居り馴染みの物を置き、個性を活かした居心地の良い空間作りをしている。転倒等も回避出来る様に家具の配置も行っている。	職員は、入居者が自分の過ごしやすい居室を自分で作れるように支援しています。ベッド、クローゼット、エアコン及びカーテンは備え付けです。入居者は馴染みのテレビや仏壇、鏡台を持ち込んだり、記念の写真や色紙を飾っている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個人のスペースには記録を行ってま す。トイレも迷わない様に目線の位置に表示している。		

事業所名	グループホーム よこはま
ユニット名	せせらぎ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまにある
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまに
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/>	3, あまり増えていない
	<input type="radio"/>	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの玄関及びスタッフ控え室に理念を掲げその都度確認出来る様にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の町内会の加盟しており、昨年度まで施設長が組長を勤めていた。夏祭りには子供神輿がホームに来てくれて交流を深める事が出来た。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	本年も推進会議に参加される方々が合同祭に参加して頂き入居者様と触れ合う機会を設けさせて頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、年6回運営推進会議を開催している。町内会、ご家族、ケアプラザの担当の方々と定期的に意見の交換を行いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所の高齢支援課が主催する介護相談員制度を導入しており、月に1度、神奈川区より派遣されている相談員2名が来訪し入居者の方々と触れ合っています。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は原則的に禁止とされているが夜間、施設玄関は安全の為に施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	特に学ぶ機会はないが各自虐待についての理解はしており防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	特に学ぶ機会を設けておらず制度利用の必要性を感じている職員は各々学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	直接関わる事は無いが入居の際にご本人、ご家族には契約に関する事、不安に感じている事等を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヶ月に1度開催されている運営推進会議への参加をご家族に呼びかけている。また面会時に訴えられた事などは要望を検討し実施した際には報告を行っている。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者が各フロアへ訪れた際に職員の意見や提案を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	処遇改善交付金の利用もあり給与水準を上げる努力をしております。日々、職場環境、条件の改善に努めていると思われる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修について度々案内を頂くが勤務の関係もあり、職員はなかなか外部の研修に参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者や施設長は同業者との交流に努めているが職員はなかなかその様な機会を持ってない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時は不安に感じる事も多いかと思われるので受容、傾聴し少しでも不安が和らぐ様に努め、その都度、様子や気付き等を個人記録に残す様にしている。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談や入居時の説明の際にご家族の要望や不安等にも耳を傾ける様にして初期の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居後の様子を観察しながらご本人、ご家族の要望に耳を傾けつつもホーム以外の支援が必要と思われる場合にはご提案する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭き、洗濯物畳みや調理の補助等の活動を通して、暮らしを共にする者同士の関係を築けていると思われる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に1度お渡しするお手紙で普段の様子等をお伝えし、必要があれば電話等も含め相談させて頂く事で共に本人を支えて行く関係を築ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族やご友人等、馴染みの方の来訪時には、居室にてゆったりとお話出来る様に努めています。馴染みの場所については外出等が難しい為に途切れがちとなっています。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロア内での皆様方の会話や表情から、それぞれの関わり方を見守り、観察し、より良い関係が築ける様にスタッフがクッション材になる様な支援が出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご本人、ご家族様より連絡、相談があれば、その都度対応出来る様に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活を良く観察し、ご本人の訴えに耳を傾けながら、ご本人の希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様や関係者の方々の話や資料等から生活歴や経過を把握出来る様にし介護計画に反映出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	フロアでの過ごし方を入居者様同士の関係を含め良く観察し、居室で過ごされている間も会話する等ほ訪室し現状把握に努めている。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1度行われるフロア会議にてモニタリング兼カンファレンスを行い、必要に応じてケアプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人一人、毎日ケース記録を付けて居り、申し送りノートを必ず出勤時に確認し業務に入る様にスタッフが情報共有出来る様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様の状態、希望によってはスタッフ付き添いボランティアによる外出支援を行う等、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎年4月には近隣の公園にて花見を行う等、地域資源を活用しながら少しでも楽しみのある生活を送れる様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科医による往診に加え週1回の訪問歯科を行う事で入居者様の健康管理に努めている。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働	週1回事業所に看護師に来て頂き、相談、治療、ケア指導をお願いしていますが週1回の勤務の為、日々の協働はなかなか難しいのが現状である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には主治医、病院間で紹介状を書いて頂き速やかな情報交換に努めている。また早期に退院出来る様にご家族、病院間と良く相談する様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当ホームでは現在、看取り介護は行っていない事、医療的アプローチが必要になった時に介護で出来る事は限られている事をご家族に説明しご理解が得られる様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応についての定期的な訓練は行えていない。出来ればその様な訓練は行いたいと思っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	天災時の訓練も必要最低限の消防署からの訓練しか行えていない。現状のままでは不安が拭えない為、定期的な訓練が行える事が望ましい。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の好み、性格をスタッフは小さな変化からも常に気をつけスタッフ間で情報を共有し言葉掛けや対応に注意し会議等で日常の不満、変化、態度の変化を全体で話し合い個別に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個人個人の希望を日常の会話、様子から注意深く見守り本人の希望に沿った対応をし励ましながら自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望に沿った対応を常にスタッフ一人一人が自身の心に受け止め対応出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	殆どの方は起床時に自主的に整容されている。個人の好みを対話の中に出た時等に心にとめてお勧めし気配りを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備に関してはスタッフと利用者で食事の用意をし誕生会や行事の際にはお好みの食事を用意して居ります。一人一人が楽しく無理なく食事が出来る様に心掛けて居ります。		

自己評価	身体拘束	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日常の食事内容をスタッフが掴み、体調、病歴等を考慮して食事や水分を提供しており、一日の最低摂取量をクリア出来る様に支援に努めている。尚、メニューは管理栄養士の指示による物である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事前の嗽、毎食後の口腔ケアの実施。週1回の訪問歯科での口腔内清掃の実施で清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別の排泄チェック表を用いて一人一人の排泄パターンを把握し声かけにて誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防として水分補給や軽度の運動を促し牛乳、ヨーグルトに加え服薬を通して排便コントロールを支援している。職員は便秘による心身への悪影響についての理解は出来ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を利用し本人の希望を大切にしながら対応しており。体調面を考慮し変更は随時行い対応して居ります。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の体調に応じてスタッフが個別の関わりを深め入眠時の状況を少しでも改善し良く休める様に努めています。日中も体調に応じて午睡して頂く事もございます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が服薬内容を理解出来る様にと服薬管理表を作成しており。変更があった場合にも即対応出来る様に努めて居ります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の生活歴、日々の様子を良く観察し、それぞれの好きな事、得意な事を掴み、それらを日常生活に取り込み、少しでも楽しみや生きがい、気分転換が出来る様に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は外のベンチで外気浴を楽しんだり、少人数で散歩に行ったりとしているが普段行けない様な場所へはなかなか難しく検討して行きたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は全てホームで行って居り、入居者様は一人一人はお金を所持しては居りません。		

自己評価	身体拘束	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月に1回は必ず手紙をご家族にお出ししています。また生活の中で支障があった場合には必ずご家族に電話にて連絡しています。また本人の希望や必要に応じて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を心や身体で感じて頂ける様にフロアの飾りつけ等を一緒に致して居ります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースは限られて居り、一人になれる場所は無いです。気の合った利用者様同士で会話出来る様に食席に配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の大切にされてきた物やご家族が持ってこられた物等を使用して頂く事で居心地の良い空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室のドア付近には表札を掲げ目印となる飾りを付けて居り、自分の部屋を確認出来る様にしている。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム よこはま

作成日： 平成29年 2月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	ホームの立地条件が坂道の上なので散歩といってもごく近所でしか行なう事が出来ず入居者は一部欲求不満を起こしている。	利用者が戸外に出られるよう努める事の一つとして町内会会館に設備されているカラオケを利用し地域との交流とあわせ定期的に何人か交代で参加する。	町内会と話し合いし了解を得ているので予定を組んで実行する。	2ヶ月
2	19	外部の人、ご家族との交流が少ないのは入居者が一人暮らしをしていた人で生活保護を受けている人が多いため、どうしても訪問者が少なくなっている。	内部での催事を出来るだけ多く行うようにしていると同時にお話をする機会を多くしていきたい。	今日の新聞から話題を取り、今、こんなことが起きている、あんな事がありましたなど、話題を出しながら、お話をする時間を作る。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月